

「只見 移住物語」

二地域居住者

【移住者のご紹介】

- ・お名前：菅原^{たかし} 孝様（68歳）
- ・ご家族：とも子様（妻 68歳）、長男（独立 40歳 東京）、長女（独立 33歳 千葉）孫1人
- ・いつ：2011年5月
- ・どこから：いわき市
- ・どこへ：大字長浜 字柄沢
- ・いましていること：読書三昧、晴読雨読
- ・まえにしていたこと：公立学校職員



ご自宅 居間にて

【始まり】

購入したきっかけからお話ししましょう。

2011年3月11日東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）地震M9がありました。その1か月後4月11日いわき市内で*福島県浜通り地震が発生しました。マグニチュードの規模はM7で、ほぼ阪神淡路大震災と同じですか。マグニチュードは大きかったのですが、山の中だったので何とか（甚大な被害には成らず）収まりました。でも4名の方が亡くなりました。

*福島県浜通り地震

東北地方太平洋沖地震から1か月後の4月11日、12日と連続して直下型の大地震が発生し、いわき市中・南部に大きな被害をもたらした。3月に起こった大地震の影響（誘発地震）とみられ、いずれも震度は6弱の大きさ。4月11日の震源は井戸沢断層南端の地下約6km、マグニチュードは7.0、12日には湯ノ岳断層の西側、地下約15kmを震源とするマグニチュード6.4の地震が起きた。今までに確認されていた断層に加え、長い同断層の南東方向に約2km延びた場所でも地割れや亀裂が生じた。

その後 見に行ったら 1.5m 位の高さまで断層が盛り上がっていました。原発の近くだってそんな断層があり、今まで知られていなかった断層も含め、地震の断層がありましたので、3本位出来ているのですが、それを見て4月末に大宮さん（菅原さんの職場友人。現在菅原さんの斜め前に居住）へ連絡をしました。

大宮さんからは「連休だから、こちらへきてみたらどう」と誘われ、只見町を訪れました。

原発には使用済み核燃料がまだ乗っかっていて、これがひっくり返ったら東日本は全滅ですよ。あれが終わるのは、私達が活着ている間は絶対に片付きません。真っ直ぐ西（いわき市から見て只見町の方位）なので、風向きを考えると県内で一番安全と思いました。

*福島第一原子力発電所事故は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震による津波の影響により、東京電力の福島第一原子力発電所で発生した炉心溶融など一連の放射性物質の放出を伴った原子力事故。炉内燃料のほぼ全量が溶解した。国際原子力事象評価尺度において最悪のレベル7に分類される。

そんなことで、そうなった場合に逃げる場があってもいいではないかと思ったのです。それに買える値段だったのです。車1台分くらいの値段だったので購入しました。ちょうど「たもかく」でこの家を売りに出していたところだったのですね。あまり計画性はありませんが、家族の避難先として価値があると本気で考えました。2011年5月連休明けに、ここを購入しました。

東京では放射性物質の問題が騒がれていましたけど、「いわき」では、地震後4月上旬まで町が死んでいました。人がいなかったのです。お金持ちは、みな外国へ行ってしまう。本当に、お医者さんも病院を閉じて、どこかに行ってしまいます。何か月後かに帰ってきたりするのですが、出て行ってしまいました。本当に自宅の周りが真っ暗になりました。

そんな状況の中で購入しました。私の場合は田舎にあこがれてとかではありません。いわき市自体が田舎です。東京とは違い、少し行けば山も、谷も、海もあります。自転車で行ける距離にすべてあります。いいところなのですよ。いわき市内にも別荘物件はありますが、最初の理由が原発ですからね。一番 端っこ（只見町）へ来ました。

【家族】

特に相談はしなかったのですが、妻はびっくりしていました。手ごろ（な値段）だというのが一番です。那須とかは高いじゃないですか、それに原発の問題もあるから那須は駄目でしょう。やはり値段ですね。車1台とほぼ同じ値段ですから。

【準備】【現在】

2011年5月に、この家を購入した時は公務員としてまだ働いていました。2013年3月に定年を迎え、5年間 再任用制度で勤務しました。66歳になって半年間だけ同じ仕事をしました。本当の意味で仕事から離れたのは2019年4月です。4月からは「無職」で、読書を楽しんでいます。

昨年までは働いていましたから買ってからは行ったり来たりしていました。それこそ休みの時、土日の休みなので、月曜や金曜日を休みにしたりして。1泊2日ではいわきからでも大変ですから。日帰りはやはりきついです。ここからだとな島から下郷を通って白河へ行き、白河から東北自動車道を少し走り、あぶくま高原道路を行き、次に49号という国道を走ると、最短で3時間15分かかります。いまはそのお金（高速道路代）ももったいないので、全部下道を通っています。途中で白河ラーメンとか食べたりして走ったりして、それでも4時間かかりませんね。

子供たちは独立して離れていますが家族4人で来たことがあります。家を買った翌年2012年に「居間」を増築したのですが、確か増築する前に来ました。その後 息子夫婦が来たり、妻と妻の父親が、もう亡くなりましたが父親も来たことがあります。居間を増築するための木材は、庭にいっぱい杉の木が生えていて、切った杉で作ってくれとお願いしました。そんなので節がいっぱいあるのです。節も景色の一つですね。

移住に向けた準備は、そもそも移住という概念がありませんから何もないです。避難場所として通っているうちに「まあ、生活するのに不便なところはないし、一人静かに本を読んでもいられる」という感じですね。

私は本があれば、一日誰ともしゃべらなくても大丈夫な人ですから。まあ草刈りはしますが読書三昧です。読書のジャンルはなんでも、小説は好きですね。新刊本も買いますし、一冊 55 円とか、50 円の本も買います。

昔から家族にご飯を作ったりしていましたから、自分で三食を作り、洗濯もします。妻は、まだ仕事があり働いているのであまり来ません。家族が来なくても特に寂しくはありません。

今年の冬（2019 年から 2020 年にかけての冬）は、こちらに居ました。除雪機を買ったのですが、1 回しか使いませんでした。暖房はペレットストーブです。この部屋（居間）は小さいので薪ストーブだと壁からの距離が必要で置けないでしょ。でもペレットストーブなら前に温風を出すので、後ろにも、脇にも熱が伝わらないので使っています。燃料のペレットは、いわき市に遠野町というところがあるのですが、そこにペレットを作る工場があり、ここの行き帰りに 200kg(1 袋 10kg) 積んでは運びました。200kg あれば一番寒い時で 10 日～14 日間程もちます。秋のうちに何回か行ったり来たりして、その間にどさっと買って運びます。今年は使い切れませんでした。



ご自宅 全景

【変化】

ここは空気がきれいです。いわきと比べても空気がきれいだと思えるくらいきれいです。やはり一番はのんびり出来得ることですね。仕事をしないですからね。

ここの環境の良いところは、杉の木を切ったら、切ったところがカタクリの花畑になったのですよ。このあたりでは面積当たりの本数が多いのではないかと思っています。そこら辺にはタラの木が沢山あります。こちらにもありますね。日当たりが良くなったのでバンバン出てきたのかと思います。ほかのものも含め天ぷらにして食べます。その時には何人か山菜取に来るといことがあります。家族よりも他の人の方が多いですね。お友達が家族連れで来たり、お酒飲みに来たり、夫婦で山菜取りに来たりします。若い子が山菜をもらいに帰り道に寄りますからとか、そんな事がたまにあったりします。

私がこちらへ通うようになっていわきの家の猫が増えました。前から1匹はいましたが、この前に帰ったら小猫が2匹加わり、計3匹になっていました。

【将来】

やはり、だんだん年を取ってゆくわけで、あまり体調の変化がなければ、あと10年ほどはこのまま出来るでしょうが、その先はちょっと不安ですね。でも、この地域に来たからといって取り立てて別な不安があるかと言うと、そうではないです。

【不便】

暮らし始めて困ったことは特にありません。お酒を飲むと車の運転はできませんよね。また歩いて買い物に行くこともできないので、飲む前には「ちゃんとタバコがあるか？お酒はあるか？」と言うことをチェックはしておかないと、計画的な買い物です。買物はブイチェーンまで行きます。南郷から来る途中に河原田商店があるので寄ります。いちばん近いのは朝日郵便局の前、ヤマザキの向こう側のおばちゃんがいるお店（渡部ストア）へ、タバコを売っているから行きます。

【健康】

つい先日胃カメラをしましたがきれいでしたよ。お酒は毎晩たっぷり飲んでいきます。酔っぱらうまで。お酒はほぼウイスキーです。夕方お風呂に入るでしょ。次は、ちびり、ちびりと台所で料理をしながら飲み始め、ここで（居間）で食べて、片付けて、寝ちゃうという感じです。寝るのは早いです。九時ごろには寝てしまいます。大宮さんのところで飲むときは日本酒です。

【アドバイス】

毎日家の中から眺める景色なのでロケーションは大事だと思います。
家でリラックスしているのに、すぐそばに何かあったら困りますからね。

【生活】

大宮さんを通してゴミカレンダーを貰っています。一人暮らしだとあまりゴミは出ません。2週間貯めても特大のゴミ袋1つあれば間に合います。いわきに帰る時に焼却場に直接持って行きます。ビン、缶は持ち込めますが、燃えないゴミは駄目なので、自宅に持ち帰ります。そんなに燃えないゴミは出ませんので持ち帰ります。

【印象】

時々来る期間は月に1回とか2回とか、それこそ2泊、3泊程度でした。夏休みとか、連休とかではちょっといきましたが、やはり、いわきの生活が主で、たまに来るという感じでした。印象は「遠い」くらいかな。

でも季節の良い時、例えばカタクリの時とか、山菜の出る時とか、それこそタラの芽も、コシアブラも、ワラビも半径10m、20mの世界で取れるのですね。ワラビはものすごく出るので、取って、処理してうちにも持って行きます。途中の勤務した職場の学校に持っていったりもしました。今年も持って行きました。

栗も、そこにある木が栗の木なので、栗の実も沢山落ちます。去年いっぱい栗の実が落ちて、ちょっと家を空けてしばらく経ってから帰ってくると、熊にすべて食べられていました。熊の糞が家の前にありました。

いわきもちょっと出れば自然の豊かなところですけど、ここは家の周りがそんな感じです。

驚いたことは、雪です。去年は少なかったけど、その前の年ですか除雪した後は3m位の雪の壁が出来ますよね。でもスノーシューで歩いてゆくと狐の足跡とか、兎の足跡とかがあって跡を追ったりしてみたりします。

【二地域居住】

最初のきっかけは緊急避難で購入しました。その後 仕事を終えるまで通いました。幸い原発はあれ以上すごいことは何も起きませんでしたから。今までのところ。

いまは年の7~8割をこちらで過ごしています。

いわきの人なんかにも「何で只見なの、遠いじゃない？」と言われることもあります。いわき市内だって別荘地はあるのですが、けど私は、きっかけが原発事故でしたから。ここに来れば、遠いのですが、いわきとは全く違う自然なのです。

例えば植物でも、いわきで見たことのないものが結構生えている。日本海側の、雪国の特徴がある。ツバキだってユキツバキでしょ、いわきは大島にあるようなでかいツバキ、ヤブツバキですしね。ほかの植物もやっぱり違うってことがありますね。

また風景が違いますね。こちらの山、会津の山はすごく尖っている。白河から走ってくると山が尖がっているのが分かる。会津の山は新しいから、ものすごく尖がっている。いわき市なんかは、すごく古い土地ですから、山のとっぺんまで人が住んでいられるようなところですから。運転しながら、きょろきょろしながら来るのが面白い。

2020年8月27日 柄沢 ご自宅にてインタビュー
インタビュアー 移住コーディネーター 生天目 博